

半導体業界のライオンズ・シェアを目指して

凛然として神楽坂からの挑戦

— 15 —

アンカー・ビジネス・シス
テムズ(株) 代表取締役社長

永田 隆一



日本政府は、特許や実用 はないと判決を下し ます。

新案、商標、著作権、ブ ラ だ。これに対して、松下は 『今回の陪審判決は到底承 服しがたく、今後の控訴を 含め必要な対応を検討す る』とコメントを発表して おります。

しかし、その現実たるや 惨憺たるものでありまし て、リーダー達に、現実を 直視していただき、考え方 を変えていただき、行動を 変えていただきたいと提言 いたします。

《米連邦地裁で特許侵害 を負ける日本》
二〇〇六年八月、米ニ ュ ー ジャー ジー 州 連 邦 地 裁 は、二〇〇二年一月松下電 器産業が、サムスン電子を D R A M の 高 速 動 作 に 不 可 欠な回路技術を侵害したと の提訴に対して、特許侵害

を負ける日本》
二〇〇六年八月、米ニ ュ ー ジャー ジー 州 連 邦 地 裁 は、二〇〇二年一月松下電 器産業が、サムスン電子を D R A M の 高 速 動 作 に 不 可 欠な回路技術を侵害したと の提訴に対して、特許侵害

企業(個人)の訴訟が四五 件、内棄却が三九件、勝訴 の範疇に入るものが六件、 勝率一三%です。日本国内 においても、低い勝率が厳 しい現実であります。

《日本・米国の特許に関 する環境の対比》
米国の弁護士は一〇〇万 人います。弁護士で弁理士 資格を有する特許弁護士は 一万六〇〇〇人です。かた や、日本の場合、弁護士は 二万人、内弁理士資格を有 する特許弁護士は三〇〇人 です。人数からみても日本 は、米国に対して五〇分の

一であります。また、一九九九年の米国 の特許関連の損害賠償と 和解金の総額は一一兆円と 報告されております。日本 国内では、その一〇〇分の 一以下ではないでしょう か。

さて、I B M では、特許 関連の収入が、年平均、一 六五〇億円あります。T I、 A M D、ランバースなども、 年間数一〇〇億円の特許ラ

装置メーカーに在籍してい た際、装置開発会議に時給 四〇〇ドルの弁護士が参加 することもありました。外 部の専門家を有効に活用し ておりました。また、特許 ポートフォリオ構築会議 は、トップマネジメント・ マーケティングが参加し、 事業戦略とのマッチングに も十二分な配慮をしていま した。

デザイン・アライメントと いう他社の特許の迂回を目 的とした会議では、突拍子 もないアイデアがどんどん 出て来まして、なんと楽し い会議なのかと実感してお りました。

《有効な特許を目指して》
大方の日本企業の特許の 戦略は、エンジンニアにとん かく特許を出願させて、将 来、外部から特許侵害を警 告されたら、クロスライセ ンスで握手するというもの であります。

グローバル経済の中で、 日本の競争力を維持・向上 することを目指すのであれ ば、戦略の転換が必要です。 ①基本特許の割合を増や す

知財(知的財産権)立国に異議あり

《速報版》の二〇〇六年四 月から六月までをチェック しますと、特許を取り消さ れたことを特許庁長官を被 告とした訴訟が五三件、内 棄却が四九件で、勝訴が四 件、確率で七・五%です。

ております。特許判決索引 (速報版)の二〇〇六年四 月から六月までをチェッ ク しますと、特許を取り消さ れたことを特許庁長官を被 告とした訴訟が五三件、内 棄却が四九件で、勝訴が四 件、確率で七・五%です。

二〇〇個の特許が入っている そうです。そして半導体関 連で成立した特許の内、有 効活用されているものは、 一〇〇〇個にひとつの割合 だそうであります。また、 特許ひとつを出願から二〇 年維持するための費用は、 二〇〇万円。経済産業省 内で特許庁のみ単独で大きな 黒字を計上しており、立派 なビルに入っております。 私が、シリコンバレーの

②自社の事業戦略との関 連性が少ないものは、特許 を放棄し、出願も抑える(外 部のコンサルタント活用が 有効)
③特許関連の訴訟は、せ めて勝率五分五分へ持って いく体制を組む(米国の弁 護士活用が有効)
④特許弁護士の数を増や す(法科大学院の増設等で 対応中)
⑤侵害監視が可能な特許 を目指す
⑥ノウハウで固める戦略 も有効

《中村修二さんの言葉》
青色発光ダイオードの発 明で日亜化学工業を高利益 率で高成長させた、中村修 二さんは、二〇〇億円の請 求から、昨年八億四〇〇〇 万円で和解しましたが、『私 は、ほかの人たちが研究し ていない材料を選んだ。エ ンジンニアというものは、情 報を持つとどうしても応用 しようとする習性があるも のだ。私は、ほかの研究者の 論文や特許をほとんど読ま なかった。だから開発でき たのかも知れない。』御意。